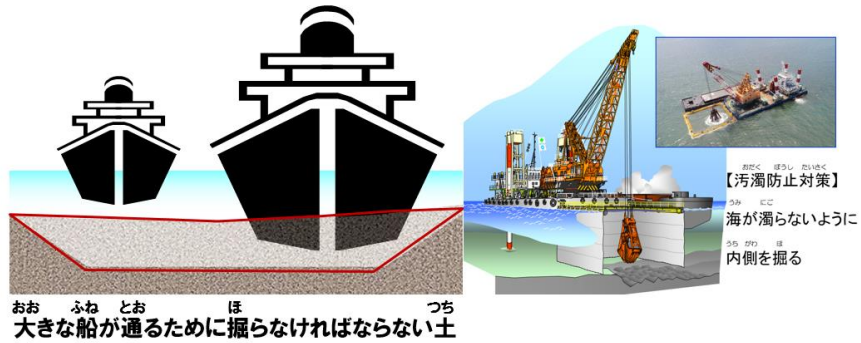


# 大島干潟について

## ●大島干潟はどうやってつくったの？

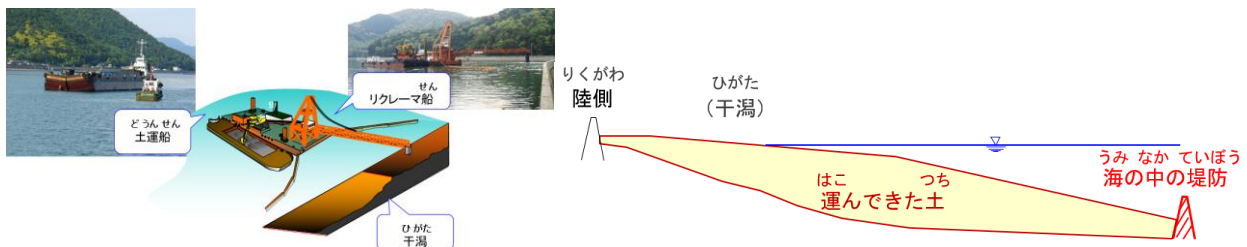
しゅうなんしない しんなんようちく こうろ おお ふね とお うみ みち  
 周南市内（新南陽地区）で航路（大きな船が通る海の路）をつくるために、  
 うみ そこ  
 海の底をほりました。



つち いちぶ どうんせん つち はこ ふね おおしまちく はこ ひがた つち  
 ほった土の一部を土運船（土を運ぶ船）で大島地区に運び、干潟の土として  
 りよう  
 利用することになりました。



はこ つち なが で うみ なか ていぼう うちがわ  
 運んできた土が流れないように海の中に堤防をつくり、その内側にリクレ  
 せんなど つち い ひがた  
 ーマ船等で土を入れて、干潟ができました。



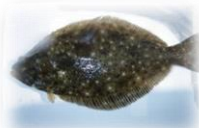


できあがった  
おおしまひがた  
大島干潟

おおしまひがた  
大島干潟をつくと、アサリやいろいろな生き物がすむようになりました。  
かいそう せいぜん ふい ば りょうし は  
海草のアマモが自然に増えて、アマモ場ができました。漁師さんはネットを張っ  
そだ  
てアサリを育てています。



タイワンガザ



ヒラメ



ミミイカ



トリガイ

おおしまひがた  
大島干潟にすむ生き物達



おおしまひがた  
大島干潟におけるアマモ場



アマモ



コアマモ



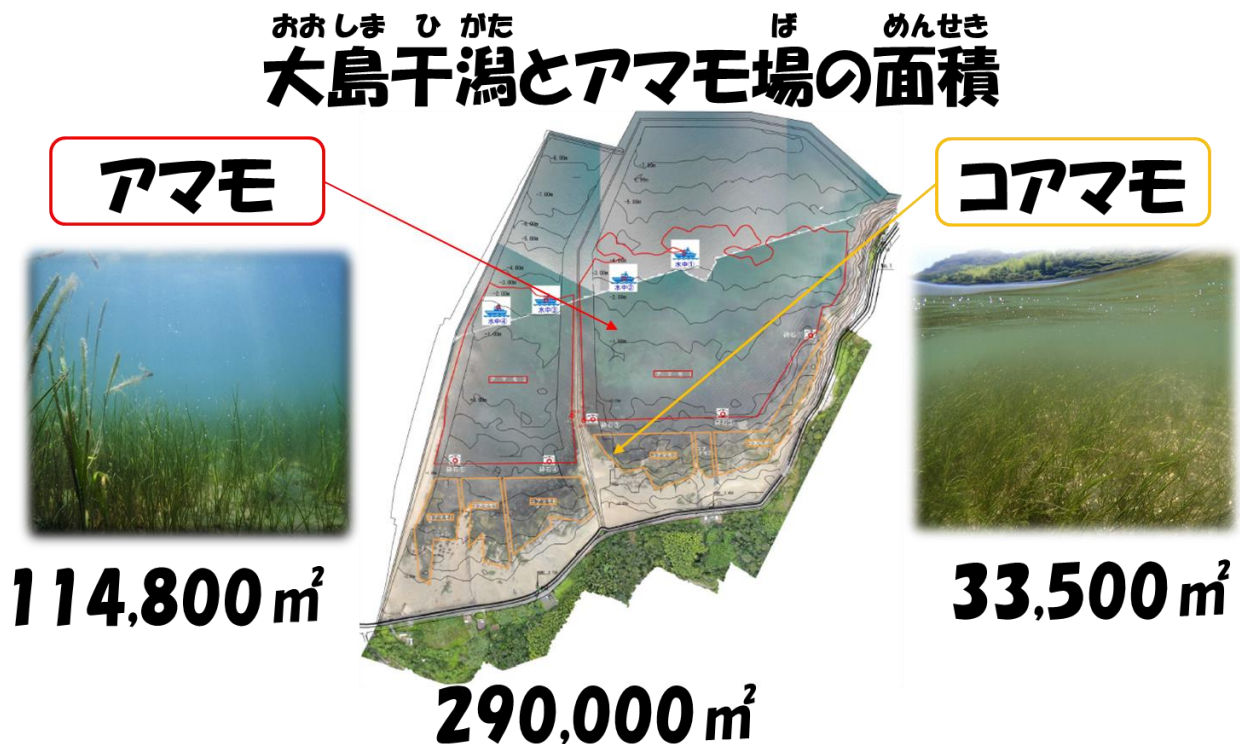
アサリネットとアサリ



# ブルーカーボンについて

## ●大島干潟のアマモ場

大島干潟のアマモ場には、アマモとコアアマモの2種類がはえています。大島干潟の面積は 290,000 m<sup>2</sup>(29ha)で、そのうちアマモが 114,800 m<sup>2</sup>(11.48ha)、コアアマモが 33,500 m<sup>2</sup>(3.35ha)を占めています。このように、大島干潟の半分近くがアマモ場となっています。



出典：JBE HP「大島干潟から、つながる周南市ブルーカーボンプロジェクト in 徳山下松港 申請書（抄）（2）添付資料」

おおしまひがた  
●大島干潟のブルーカーボン

それだけではなくアマモは、地球温暖化の原因となる  
二酸化炭素を吸収します。このように、海に吸収される  
二酸化炭素をブルーカーボンといいます。

おおしまひがた  
大島干潟では、1年間に44.3トンもの二酸化炭素が  
吸収されています。みなさんのお家では、1年間に2.72  
トンの二酸化炭素が排出されていますから、大島干潟は約  
16家庭分の二酸化炭素を吸収していることになります。

おおしまひがた  
大島干潟のブルーカーボン

ねんかん  
1年間で44.3トンの二酸化炭素を吸収



かてい  
1家庭  
ねんかん  
年間2.72トン排出  
はいしゅつ

$$44.3 \div 2.72 \\ \text{やく} \\ = \text{約} 16$$

おおしまひがた  
大島干潟は1年間に16家庭分の  
ねんかん  
二酸化炭素を吸収する！！  
かていぶん

出展：環境省「家庭部門のCO2排出実態統計調査」